



茗溪

かながわ

発行 神奈川茗溪会 (旧 茗溪会神奈川支部) 発行者 清水進一

平成 25 (2013) 年 9 月

神奈川茗溪会総会を開催

7月6日(土)、神奈川茗溪会総会、講演会、懇親会が横浜中華街の「ローズホテル横浜」にて開催されました。

7月6日(土)、一般社団法人茗溪会理事の川田孝一氏他3名の理事のご出席のもと、横浜中華街のローズホテル横浜にて開催されました。総会48名、講演会53名、懇親会68名の参加者を得、例年どおりの盛会となりました。

総会の総合同司会は山崎紀彦氏(s53教院農)。午前11時、総会開始に先立ち、昨年度の総会以降に訃報を頂いた14名の物故者への黙祷の後、副会長の出井善次氏(s51教院農)の辞により開会。

神奈川茗溪会と

会報「茗溪かながわ」

始めに清水進一会長(s43教大数)のご挨拶があり、「神奈川茗溪会」への名称変更が全国各地の茗溪会支部に波及していることは嬉しい、また昨年10月発刊の本会報「茗溪かながわ」も注目されており、会員をつなぐパイプとして活用していきたいとお話がありました。

また、茗溪会ホームページに神奈川茗溪会の活動状況が紹介されており、ぜひ閲覧を、との情報提供がありました。

叙勲おめでとうございます

安藤彬氏(s38教大休)が平成24年秋の叙勲で瑞宝小綬章を授

与されました。清水会長より紹介の後、佐々木悦子氏(s46教大休)より記念品が贈呈されました。

来賓ご挨拶ー川田理事

続いて川田理事の来賓ご挨拶がありました。川田氏は、茗溪会ホームページの支部紹介欄の冒頭に神奈川茗溪会と会報「茗溪かながわ」が掲載されていることを紹介、全国の支部から注目されていると話されました。その後、神林喬氏(s40教大教育)の理事着任の紹介と西塚祐一理事(s55筑体)とともに本部との連携を支えてほしいと激励されました。

茗溪会本部の取組のこと

さらに、茗溪会本部の取組について説明がありました。一般社団法人茗溪会は、今後筑波大との関係強化のため茗溪会拡充キャンペーンを行うこと、筑波大学への支援策として「茗溪フェロー」という制度を設け、会費完納会員より1口二千円の拠出を仰ぐこと、本部・支部間の連携のため、還元金の仕組みを見直し、支部会員数に応じた還元を行うことについてお話しされました。

議事について

西村宗一郎氏(s51教大植)議長の下に議事進行し、第一号議案



川田全国理事のご挨拶

たこと、5%の経費削減を図ること、神林理事の就任が全会一致で承認されたことについてお話がありました。

神奈川茗溪会のめざす姿

初参加の会員より、東京教育大学卒から筑波大学卒へ主流が移り変わる中、総会への参加者を教員以外にも拡大すべきではないかとのご意見が出されました。会長より、神奈川茗溪会は今や教員だけで構成する組織ではなく、一般に開かれた会であることについて説明がありました。

神奈川茗溪会講演会

総会後は恒例の神奈川茗溪会講演会を実施。今回は、元NHK青森放送局長・松館忠樹氏(s43教文)を講師にお迎えし、「東日本大震災から2年4か月ー復興Vの名の下に何が進行しているか」を演題に、東日本大震災の復興の状況と課題について熱く語っていただきました。(茗溪会ホームページ上に報告を掲載します。ご覧下さい)
<http://www.meikai.or.jp/branch/kanagawa>

WA



松館忠樹氏による講演

報告事項

平成25年5月30日茗溪会館にて開催された一般社団法人茗溪会の定時総会の報告が佐々木悦子副会長よりあり、2万名超の会員のうち、筑波大卒の割合は71%に達し

「雑感」〜東京オリンピック 開催が決まって

神奈川茗溪会会長

清水 進一（s 43 教大数）



2020年のオリンピックが東京で開催されることが決まりました。テレビで見た招致委員の熱気のもったパフォーマンスに感動を覚えながら思い出したのが、前回の東京オリンピックでした。

昭和39年は私の人生にとって最も忘れられない出来事が多い年でした。4月に東京教育大学に入学し大学生活が始まり、9月には東京〜小田原間の往復でしたが、開通前の東海道新幹線の試運転に乗車でき、初めて体験したスピードに驚きました。

10月10日のオリンピックの開会式は、テレビでライブ放送は見る事ができませんでしたが、青空に描かれる五輪の飛行機雲を大学から見る事ができ、皆で歓声をあげました。

マラソンを見に友人たちと国立競技場に行きましたが、入場券がないため、競技場近くの喫茶店でテレビ応援し、先頭が返ってくる時間に競技場の入口で選手を迎ええました。

アベベ選手の後田谷選手が2位で競技場に入ったのを見送り、大学への帰り道にふと後ろを見ると表彰式の国旗掲揚が見えましたが、私だけ日の丸の位置が何故かおかしいなど思いながら帰った記憶があります。

期間中、会場に入れたのは唯一閉会式だけでした。開・閉会式は往復はがきで応募する方法でしたが、私は、閉会式は当たらないと考え閉会式のみ、私の家族数の4通のはがきを出したところ、ちょうど私の名前のはがきが1枚だけ当たりました。

閉会式の席はこれも幸いでしたが、電光掲示板の真下でした。開会式とは打って変わった感動的な選手入場から、聖火が消え選手が退場するまで、見ず知らずの隣り同士が肩を組み、一緒に感動で涙を流したことを忘れません。

2020年には私は75歳になりますので、もしかしたらオリンピックを見る事ができないかもしれません。しかし、何と云っても今の子どもたちが私と同じような経験ができることがうれしいことだと思います。

現在の小学生から大学生たちが東京オリンピックで活躍し、また、国民の皆がそれを見ることができるとは素晴らしいことだと思います。

また、前回も多くの教育大学生が活躍しましたが、今度も筑波大学の後輩たちが活躍してくれるだろうと期待もし、もし私が生きながらえていたならば、是非とも係を連れて応援に行きたいと思っています。

若手会員より

この度、第2号会報に続き、若手交流会について紙面を割いていただきましたことお礼申し上げます。今回は、第2回交流会のご案内をさせていただきます。

まず、先日の神奈川茗溪会総会後の懇親会でのひとコマです。発起人三人衆が次回の若手交流会の日取りを決めかね、決定を先送りしようとしていたときです。矢野事務局長から「大事なことは、今決めてしまえ」と一言叱咤(アドバイス)され、毎年、11月の第3土曜日に継続的に開催して頂くことを宣言させていただきました。おかげでオブザーバーの先輩を合わせると9名の方から、その場でご参加意思をいただきました。ゆくゆくは、神奈川茗溪会のシンボル日に育ってくればと密かな期待を抱いております。第2回若手交流会の日時・場所は、次のとおりです。

- ◆平成25年11月16日(土) 18時より
- ◆横浜スカイビル11階 「大陸」

平成卒の皆様、奮ってご参加ください！

若手交流会
幹事代表
乾 高章（H 07
筑一自然）



昨年始まった若手の会の風景

茗溪会総会 懇親会

円卓に幾つもの話の輪
懇親会場に大きな茗溪人の輪

神奈川茗溪会総会に引き続き、横浜中華街の「ローズホテル横浜」2階ボールルームで神奈川茗溪会懇親会が開催されました。東京高等師範学校昭和23年卒業の方から筑波大学平成19年卒業の方まで68名の様々な分野の卒業生がこの場に集いました。卒業年には何と約60年の差異があります。

それぞれの円卓では「桐花寮の食事」や「平砂・追越の風呂」「一の矢の二人部屋」などの話に盛り上がりました。

そして、懇親会の最後には肩を組んだ同窓生の大きな輪ができ、一番の「桐の葉は木に朽ちんより・・・」に始まり二番の「日本の本の教えの庭に・・・」、三番の「年を経て百年(ももとせ)過ぎぬ・・・」と続き、四番の「桐の葉は筑波の庭に いや繁り三十年(みそとせ)過ぎぬ 新しき世紀を拓き いざ行かん こぞりて吾等」まで一同が「宣揚歌(桐の葉)」を熱唱しました。

(文責 堤誠一
s 55 筑二人間)



特集 学生寮

—東京教育大と筑波大・比べてみる—

東京教育大学 桐花寮

大島 海一（s48教大修補）

桐花寮は東武東上線上板橋駅の近くに有り、木造二階建て四棟からなる「学生の自治寮」だった。9時〜17時を勤務時間とする事務職員と調理人（たぶんパートのおばさまたち）がいない時（つまり彼らの時間外）は学生の自治管理であった。当然、門限はなし。携帯電話もポケベルもない時代だったので、輪番で電話当番を置いていた。電話を受けると館内放送で「〇〇号室の〇〇さん、お電話です」「××号室の××さん、電話です」と、掛けてきた相手が女性か男性かをしつかり区別して放送する慣わしで、「お電話」の時には全力疾走で事務室に来る人が多かった。

部屋は入り口が引き戸の四人部屋。入ると両側に木造の二段ベツド、その奥の木の床の部分をおよそ四分割して机・椅子・本箱を置いていた。共同利用部分にはトイレ・洗面所・水のシャワーがあり、お風呂はなかったので近くの銭湯に行った。また、廊下を含めた共同利用部分の清掃は、輪番で行っていた。ただし男子寮ゆえ（？）、廊下には工事現場の赤色灯



東京教育大学・桐花寮の風景

がくるくる回っていたり、どこで調達したのか人気女優（もちろん吉永小百合）の等身大の看板が立て懸けられたりしていた。各部屋の壁や引き戸には、駅や店頭から持ってきたと思われる人気の大きなポスターが貼られていた。また、テニスコートが一面あり、夏には上半身裸でテニスに興じていた。朝洗面所で顔を洗っていると、隣で女性が顔を洗っており、「ん？」「なぜ？」、なんてこともあった。当時は都電が片道10円往復15円、国立大学の授業料が年1万2千円（1ヶ月千円）だったが、寮費は1ヶ月千円以内（宿泊費百円＋光熱費や諸経費は頭割りで9百円以内）、食費（朝夕の二食）は3千円だった。つまり一日百円で朝食と夕食が作られていた！私立の女子短大の寮では夕食に酢豚が

出ることがあったが、桐花寮では酢鯖しか出なかった：日本育英会の特別奨学金（1ヶ月7千円）をもらって学業に専念している「勉強命？」の学生もいたが、事務室には「家庭教師募集」依頼が多く、多くの学生はアルバイトをしていた。

※大島氏は昭和41年から46年まで桐花寮に居住されました。（文責・佐藤）

筑波大学創生期の学生宿舎

加藤 充洋（s56筑一社会）

学生宿舎は筑波生のふるさとである。新入生のほぼ一〇〇%が学生宿舎で大学生生活を始める。だから同窓生は学生時代を語る時に学生宿舎の話が欠くことができない。

学生宿舎は単身用個室（六畳弱の広さ）だけで約三四〇〇室、留学生や世帯用の個室を含めると、宿舎全体で四〇〇〇人以上が住む。この宿舎は大学の敷地内にあり、南側にある「平砂地区」「追越地区」と北側にある「一の矢地区」に分かれ、さらにそれぞれ男子棟、女子棟に別れている。私のいた一九七六年〜八一年は確か寄宿料と共益費あわせて月額七〇〇〇円（現在は一四六四〇円）だった。また、宿舎各棟には洗濯室、補食室なども併設され、学生宿舎共用棟（生活センター）には、銭湯、

理容室又は美容室、電気店、食堂・売店があった。

当時は研究学園都市と言っても陸の孤島状態だったから、このくらい便利でないと暮らせなかった。買い物は共用棟で済ませるしかなかった。共用棟のよろずや的売店は独占状態だった。例えば、ほとんどの部屋がその売店で売っていた同じ柄のカーテンだった気がする。当時、学生宿舎で生活するのに不可欠な三種の神器は、テレビ・自転車・冷蔵庫。宿舎の費用は安かったものの、暮らし始めるのにそれなりに金がかかり親に申し訳なかったのを覚えている。

宿舎の生活は今思えば強烈に楽しかった。規則は無いに等しく自覚に任せられ最大限の自由を謳歌できた。しかも現在のように携帯電話がなく緊急の場合のみ共用棟から呼び出し電話がかかるくらい。だから、学生たちは家族のみならず社会から隔絶され、勝手な独自の宿舎文化を築いていた。遠くの家族より近くの友人。功罪は別にして、学生は二四時間すべて自分たちの閉ざされた世界で過ごしていた。ほんの少しでも仲間を心を開けば年がら年中ワイワイガヤガヤの毎日。自由な若い大勢の男女が時間を共有していたわけだから、当然、論争あり恋愛あり。だから筑波の同窓生は、寄り集まれば宿舎生活のエピソードを語り合



一の矢学生宿舎—いわゆる「夫婦寮」もあった

って昔を想う。

では、私の持ちネタを少し披露。ある夜、土浦あたりの暴走族一〇余人が平砂宿舎エリアに侵入した。オートバイの爆音に混じりどこからか「集合！」の声。柔道部やらラグビー部が集められた。柔道部のT氏の強いこと。ちぎっては投げ、しばらくの後、暴走族は可哀想に一堂正座させられていた。また、共用棟の銭湯では春になると体育会の新入部員が女湯に向かって大声で自己紹介をさせられて、下手糞だと何度もやり直し。女湯からも冷やかしの声が飛んできた。どこの部やサークルにも宿舎生活の中でバンカラなストームが出来あがっていて、抱腹絶倒の馬鹿騒ぎには事欠かなかった。一般社会では通用しない勝手気ままな律法の中で暮らした日々は夢のような日々であった。

会員の皆様より

今年も総会の案内に多数のご返信をいただきました。ありがとうございます。頂戴したお葉書の中から、掲載のご了解をいただいたものを紹介させていただきます。

▼新しい課題への取り組み、新体制の確立、御発展を感謝いたします。
(堀江澄男様 s.23 高師理四)

▼五月で喜寿を迎えました。いつまで出来るか分かりませんが、毎日二万歩以上歩いています。
(赤地靖男様 s.34 教大体育)

▼会社退職後十五年になります。水田(米)、畑(野菜、直売しています)家内と二人で約六反歩を作付けしています。
(加藤好美様 s.37 教大農業工)

▼茗溪かながわ No.2 めいけい探訪『近代教育発祥の地』興味深く拝読。明治五年(1872年)と私は記憶することになりました。まあ年ですから忘れるでしょうが。
(生山匡様 s.42 教大体育)

▼北鎌倉女子学園校長をつとめております。清水会長のお顔を懐かしく拝見いたしました。大学在学中、お世話になりました。
(又木正登様 s.43 教大理)

事業報告

▼神奈川の教員採用二次試験対策

8月10日(土)、神奈川工科大学の施設を借りて実施。12日(月)以降にも態勢を整えていきましたが、二次試験の日程上、活用できずに受験に臨んだ参加者も多かったです。

筑波大7名(生物1名、物理1名、保健体育4名、社会1名)に、神工大5名、他大学4名を加えて、計16名の参加者でした。

参加者が予想外に多くなり、応援をお願いするにしました。実施前日の急な依頼に4名の同窓(佐々木悦子氏、西村宗一郎氏、本木幹雄氏、中弥貴晴氏)から快諾を頂き、清水会長以下、6名態勢で実施しました。

◇全体説明 清水会長より二次試験の概要と留意事項の解説。
◇模擬授業 参加者が他の参加者を生徒にして行い、終了後に、手厳しい批評と温かい助言を受けていました。

◇面接指導 二会場に分けて面接指導を行いました。ごこちなかつた動作や応答は、参加者相互が面接を見合い、面接体験を重ねる毎に、改善されていきました。

予定期間を大幅に過ぎて終了。当然のように、茗溪の先輩と後輩が連れ立って飲み屋に。ジョッキを掲げ、壮行会となりました。

(文責 矢野正人 s.53 院農)

情報コーナー

◆平成25年度若手交流会開催のお知らせ

平成24年度に発足した神奈川茗溪会若手交流会が25年度は11月16日(土)18時より、横浜スカイビル11Fの「大陸」で開催されます。平成卒業(修了)の方々のご参加をお待ちしています。(p.2参照)参加申込み等は、若手交流会発起人まで。
email: wakate@kanagawa-meikei.org

◆平成25年度(県立学校)管理職等懇親会開催のお知らせ

例年開催されている神奈川茗溪会管理職等懇親会は、12月7日(土)、ローズホテル横浜で開催されます。幹事の瀬木明氏(s52 教大応数)より案内が發送されますので、奮ってご参加ください。

平成26年度神奈川茗溪会総会の御案内

来年度の総会を次のとおり開催します。皆さま奮ってご参加ください。

◇平成26年7月5日(土)
11時より総会、13時より懇親会
於 ローズホテル横浜
<http://www.rosehotelyokohama.com/content/access>

※ なお、今後も7月第1週の土曜日に開催する形を基本としていきますので、ご予約ください。

会員訃報 *昨年度総会以降

- 柴田 敏男 氏 (s17 理一)
- 志賀 義雄 氏 (s19 理二)
- 秋元 正夫 氏 (s23 体専)
- 水野 潤 氏 (s23 臨教)
- 相田 盛二 氏 (s26 芸)
- 堀越 進 氏 (s27 理一)
- 植村 罔雄 氏 (s29 教大法政)
- 小俣 盛男 氏 (s30 教大日史)
- 柳井 達雄 氏 (s30 教大心理)
- 安井 祥夫 氏 (s31 教大数)
- 有泉 晃 氏 (s33 教大農化)
- 西森 二郎 氏 (s34 教大地)
- 小口 和夫 氏 (s35 教大哲)
- 星川 勝 氏 (s36 教大特教)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

○住所変更や不明会員の情報などありましたら、事務局または地区委員までお知らせください。

事務局長	矢野 正人 (s53 教院農経)	080-5410-9149	E-mail: yano@kait.jp
川崎地区【川崎市】	委員 西村 宗一郎 (s51 教大植)	045-362-7010	
	委員 南 敏章 (s52 教大数)	045-945-2086	
横浜地区【横浜市】	委員 佐々木 悦子 (s46 教大体)	045-784-0670	
	委員 望月 正大 (s51 教大数)	045-812-0281	
横三・湘鎌地区【横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、三浦郡、茅ヶ崎市、藤沢市、高座郡】	委員 鈴木 彰 (s49 教大地)	0467-52-5354	
	委員 瀬木 明 (s52 教大応数)	090-1040-3612	
平秦・西湘地区【平塚市、小田原市、中郡、足柄上郡、足柄下郡、南足柄市、秦野市、伊勢原市】	委員 細谷 俊一 (s47 教大生化工)	0465-77-2046	
	委員 井出 真理子 (s47 教大英)	0463-71-1191	
北相地区【厚木市、海老名市、綾瀬市、大和市、座間市、相模原市、愛甲郡、神奈川県】	委員 大島 恵子 (s46 教大植)	042-715-0317	
	委員 本木 幹雄 (s50 教大体健)	090-3817-3402	